

2025/11/10（月）

朝の礼拝

聖書 フィリピの信徒への手紙 4章 6-7節（新約聖書 358 頁）

何事も思い煩ってはなりません。どんな場合にも、感謝を込めて祈りと願いを献げ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超えた神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスにあって守るでしょう。

あふれる喜び

11 月も中旬に入ります。先日、ある高校三年生が「学校に登校するのもあと五十日になりました」と教えてくれました。もう卒業までの登校日のカウントダウンが始まっています。そんな言葉を聞くと、慣れ親しんだクラスメートと別れる寂しさと、同時に感謝の思いが広がります。

不思議です。とても寂しいのに、同時に言葉にできない感謝の思いで胸がいっぱいになります。別れるのは辛いけど、喧嘩したことも忘れて、友人や先生、そして家族の支えや励ましが心に甦り、喜びと感謝があふれてくるのを、何年も経ってから抑えることができないのは不思議です。

冒頭の手紙を書いたパウロはユダヤ教指導者、キリスト教の迫害者でしたが、回心して迫害を受ける側へと人生が大逆転しました。パウロは獄中で殉教、世を去る時が来たことを意識してこの手紙を書いています。しかし何度も「常に喜んでいなさい」と繰り返しているので「喜びの書簡」と呼ばれています。

幾度も妨害で挫折し、虚しさに襲われ、身の危険にさえ遭ったパウロですが、彼の手紙は一貫して感謝と賛美の喜びにあふれています。そのパラドックス（逆説）の人生はキリストと共にある人生です。だから毎朝共に讃美し、御言葉を聴き、祈れるのは、あふれる喜びの道はこれからも続くとの励ましです。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、教会の暦の終わりに向かい讃美歌コンクール、静岡英和の創立記念日も近づきました。そして学校クリスマスと続きます。残り少ないクラスメートとの生活を大切に過ごし、あなたがいつも共におられる喜びと感謝を献げられますように。また心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を与え、共に喜びと感謝を献げることができますように。そして災害や戦禍にある方々の安全と生活を守り、わたしたちを平和の器として用いてください。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン